

# 第 1 学年 生活科学 学習指導案

1 年 2 組 指導者 藤田 恵 里 子

## 単 元 てづくりおもちゃであそぼう

### 1 単元について

本学級の子どもたちは、小学校での新しい生活や新しい友達との出会いも乗り越え、学級の一員として落ち着いて過ごすことができるようになってきている。授業の中で友達と考えを伝え合ったり、休み時間に運動場で多くの友達と遊んだり、友達とのかかわりを楽しみながら生活する姿も見られる。このような子どもたちが、幼稚園児と協力しながら「てづくりおもちゃフェスタ」をひらく。このことは、身近な人とかかわることのよさや楽しさが分かり、自分の遊びや生活を楽しくしようという気持ちをふくらませることにつながるだろう。

本単元は、仲間や幼稚園児とともに、てづくりおもちゃを作り、遊び方を工夫することをおして、よりよい「てづくりおもちゃフェスタ」にするにはどうしたらよいかを追究していく学習である。子どもたちはまず、児童集会での思い出を振り返り、自分たちだけのフェスタをひらきたいという思いをもつ。次に、幼稚園児との出会いを経て、自分たちのグループの遊び方を工夫する。繰り返し仲間や幼稚園児とかかわることで、身近な人とのよりよいかかわり方や楽しい遊びにするための工夫に気付く。このような学びにおいて、仲間や幼稚園児とかかわりの中で自ら課題や成果に気付く、よりよい「てづくりおもちゃフェスタ」にするために活動できるようにしたい。そうすることで、学びを振り返った際に、仲間や幼稚園児とともに楽しい遊びをつくることができた自分に気付く、身近な人とかかわることのよさや楽しさを実感することにつながるからである。

そこで、以下の支援を具体化する。

- 幼稚園児とのグループ活動と小学生だけの話し合いを繰り返す単元構成を仕組む。そうすることで、グループの中心となって話し合いを進めることができるようにする。
- 気付きを伝え合う活動では、幼稚園児やお客さんの立場に立った問い返しをする。そうすることで、相手意識をもって活動を工夫することができるようにする。
- 遊びを工夫する活動では、毎時間の終末に、自らの活動を「遊びの楽しさ」「幼稚園児とかかわり」の観点について3段階評価で振り返り、理由を伝え合うように促す。そうすることで、課題を明確にしたり、活動の達成感を味わったりできるようにする。

### 2 目 標（自然や物を使った遊び、生活や出来事の伝え合い）

- 仲間や幼稚園児とともに身近な物を使った遊びを工夫する中で、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、身近な人とかかわることのよさや楽しさが分かったりすることができるようにする。
- 仲間や幼稚園児とともに楽しい遊びをつくることができた自分に気付く、これからの自分の遊びや生活を楽しくしようという気持ちをもつことができるようにする。

### 3 評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、身近な人とかかわることのよさや楽しさが分かたりしている。	○繰り返したり、比べたり、試したりして遊びを工夫している。	○身近な物を使った遊びを工夫しようとしている。
○遊びを工夫したり、身近な人と楽しんだりすることができた自分に気付いている。	○活動を振り返り、言葉、絵、動作などを使って自分なりに表現している。	○身近な人と進んでかかわろうとしている。

### 4 指導計画（全15時間）

1次 児童集会を振り返り、単元の見通しをもつ（2時間）

2次 遊びを工夫し、てづくりおもちゃフェスタをひらく（12時間）【本時6、7／12】

3次 学習を振り返る（1時間）

5 本時案 【平成29年11月24日 9:30～11:30 幼稚園遊戯室、星1、2組】

(1) ねらい グループでの遊びを工夫したり交流したりすることとおして、ルールの工夫に気付き、仲間と協力しながら楽しい遊びをつくることができるようにする。

(2) 学習過程

学習活動／子どもの意識	支援
<p><b>① 前時を振り返り、学習の見通しをもつ (15分)</b></p> <p>学習内容 ・楽しい遊びをつくらうという意欲(態)</p> <p>B 前は1年生だけで話し合ったね。星組さんも楽しむために、やりたいことや困っていることをしっかり聞くようにするよ。</p> <p>A 前よりももっと楽しい遊びができるといいな。</p>	<p>○振り返りシートをもとに、これまでの活動について振り返り、本時の活動を確認することで、めあてをもって活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>○気付きを伝え合う活動では、幼稚園児やお客さんの立場に立った問い返しをすることで、相手意識をもって活動を工夫できるようにする。</p> <p>○遊び方の似たグループでペアグループを組み、お互いの遊びを試すように促すことで、新たな工夫に気付くことができるようにする。</p> <p>○終末に、自らの活動を「遊びの楽しさ」「星組とのかかわり」の観点について3段階評価で振り返り、理由を伝え合う時間を設けることで、課題を明確にしたり、活動の達成感を味わったりすることができるようにする。</p>
<p><b>② グループで遊びの工夫をする (40分)</b></p> <p>学習内容 ・遊びの工夫(思) ・言葉や動作などへの表現(思)</p> <p>A ゴム飛行機が遠くまで飛ぶようになってきたね。</p> <p>B ○ちゃんは絵を描くことがしたいのだね。それなら、完成したゴム飛行機の飾り付けをしてもらおう。</p> <p>・ぼくたちはゴム飛行機がもっと遠くまで飛ぶように工夫しようよ。坂道をもっと高くしたらよいのではないかな。</p> <p>A □くん、ぼくと一緒に坂道を作ろう。ここを持ってくれるかな。</p> <p>・よし、坂道ができたよ。さっきより遠くに飛ぶようになったね。</p>	
<p><b>③ ペアグループで遊びを試し、遊びを工夫する (40分)</b></p> <p>学習内容 ・遊びの工夫への気付き(知) ・言葉や動作などへの表現(思)</p> <p>・ぼくたちと同じ、飛行機グループだね。楽しそうだな。</p> <p>・遠くに飛ぶほど点数が高いのか。よし、50点を目指すよ。</p> <p>・やった。遠くまで飛んだから70点だった。うれしいな。</p> <p>A 1班の遊びは、なんだか楽しいね。</p> <p>お客さんのAさんは楽しそうだったね。どんなところが楽しかったのかな。</p> <p>A 得点があったところだよ。100点でうれしかったからね。</p> <p>・わたしたちも、得点を付けようよ。どこからどこまでが何点か分かるように、コースも作ったらどうかな。</p> <p>B ○ちゃんは色塗りが上手だから次はコースの色ぬりをお願いね。</p>	
<p><b>④ 学習を振り返り、次時の見通しをもつ (15分)</b></p> <p>学習内容 ・遊びの工夫やかかわりのよさへの気付き(知) ・活動の見通し(思) ・楽しい遊びをつくらうという意欲(態)</p> <p>A 今日は「楽しさ2・かかわり3」だよ。1班の遊びを試して、得点とコースを作ったらもっと楽しくなると思ったからだよ。</p> <p>B ぼくは「楽しさ2・かかわり3」だよ。○ちゃんに「楽しい」って言ってもらったからね。遊びを工夫するところも見付けたから、次は楽しさ3になるようにがんばろう。</p>	

6 板書計画

